

Title	高橋氏文考注(大岡山書店發行)
Sub Title	
Author	松本, 芳夫(Matsumoto, Yoshio)
Publisher	三田史学会
Publication year	1931
Jtitle	史学 Vol.10, No.3 (1931. 9) ,p.201(543)- 201(543)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	書評
Genre	Journal Article
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19310900-0201">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19310900-0201</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

の民族の全部の批判は出来ない。アイヌの叙事詩にも幾段の變遷がありしなるべく吾人は、その中でも古式を帯びたカムイ・ユーカラがアイヌ生活の研究に多くの資料を提供することを信じて疑はない。

著者は、本書の序言の中にその研究法について一言せられ、文化科學は、具體的個別的なものであり、統計的方法は役にたゞずと述べてをられるが、吾人は、此問題に關する全ての資料を比較し、綜合し、歸納し、統計的方法をもつて結論を得たい希望に堪へぬ。著者は非常な學術的良心をもつて一つ一つ正確な資料の提供を志してをられるのであらうと思はれるが、しかし、發表せられざる部分も、大體そのアウト・ラインを示され、その主題などの共通・特種等の區別を統計的方法で示していたゞくことは出来ぬだらうか。著者自身ユーカラの構想を論じ共通形式と異體とをいふ區別を述べられてゐるが、これは暗黙の中に氏自身が統計的方法をとつてゐられるのではなからうか。吾人は、この區別を數的證據を擧げて説明され、讀者を納得せしめらるる様な態度をすることだけはして文化科學の眞性質に違背するものではなく、却て科學としての正確さを増すのではないかと思ふ。然らざれば吾人は、提供された資料から學問的歸結を惹くことが容易でなくなる。叙事詩の研究にも或程度まで統計的方法の採用は必要なのではあるまいか。後進者として甚だ非禮僭越ではあるが著者の寛容を信じ、評者の希望を述べて蕪雜な紹介の筆を置く（松本信廣）。

## 高橋氏文考注

（大岡山書店發行）

記紀のごとき統一ある國史の編纂される以前には、家氏には、それぞれその由來や事蹟をのべたところの、纂記とか本系帳とか氏文とか稱せらるるものがあり、さうしてそれらがまた國史編纂の貴重な資料の一となつたであらう。その中氏文の例としては、本朝月令、政事要略、及び年中行事秘抄などに散見せる高橋氏文があり、その注釋本としては、伴信友の考注一卷が有名である。本書はこの伴氏の考注の復刻であつて、横山重・松澤智里兩氏によつて嚴密なる校訂を施されて新に公刊されたことは、古代文學及び古代史の研究者にとつて誠によることばしい次第であつて、この氏文が古代研究に對し極めて貴重であることは、他の書においては甚だ稀れなる古い宣命を傳へてゐることだけをみてもわかる。たゞ慾をいふならば、この氏文の由來とか性質とか、價值とかについての解説を附してもらへば、初學者にとつて一層便利であつたらうと思ふ。（松本芳夫）

## 南方土俗

（臺北帝大土俗人類學研究室內）  
（南方土俗學會發行）

臺北大學の教授その他の盡力でこゝにいふ標題の雜誌が、發行された。移川子之藏氏のその蘊蓄を語る「紅頭嶼ヤミ族と南方に列なる比律賓バタンの島々。口碑傳承と事實」は、その第一號を飾る好論文である。まづヤミ族の口碑を述べ、バタンより渡來したりといふ云ひ傳へあることを述べ、日本の漂流記事、航海記によつてバタン島の土俗について語り、ヤミと同じきことを指摘し、つ